

(別紙様式2 ②)

### 議員報告書

1 議員名	山根 温子
2 期 日	R7年 11月 12日 ~ R7年 11月 13日
3 研修先等	1日目 徳島県上勝町 2日目 徳島県海陽町ほか
4 内容(目的) (班の目的に同じ)	本市の農業をはじめとする後継者問題の参考にするため、その詳細を現地にて調査する。 また、阿波海岸鉄道については、過疎における鉄道の存続のあり方を調査し研究する中で今後の芸備線のあり方の検討材料とする。

#### 5 報告事項

政務調査班の報告書にあるとおり、令和7年11月12～13日に徳島県上勝町および阿佐東線 DMV 沿線地域(海陽町ほか)を視察し、人口減少・高齢化・山間地域という点で安芸高田市と共通する地域における、産業振興・環境政策・公共交通の先進事例について調査した。以下、個人の報告書として、班報告と重なるものについては省略した。

1日目の上勝町では、「葉っぱビジネス」を立ち上げ、地域の女性に「葉っぱ」、「つまもの」の価値を伝え、地域に新たな特産品を立ち上げられたこと。いづれ社長横石氏の40年間の活動と横石氏没後は、「葉っぱビジネス」に関わって14年の若き社長のもと途絶えることなくしっかりと後継者育成がなされている。また、平均年齢70歳の方が生産者としてfaxやパソコンさらにタブレット、スマートフォンと変化に合わせて、当日注文当日出荷という早いもの勝ちの受注を受けられており、生き甲斐の大切さを感じた。

また、上勝町はゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)に日本で初めて取り組み、住民自らがごみを分別することで、現在80%のリサイクルを達成しており、残る20%については企業連携による実証実験が行われているとのこと。

町と住民とのごみゼロへの認識そして取り組みが80%のリサイクルを可能としてきた、今後の企業連携による新たな成果に期待する。ごみゼロは一人一人の意識づけから!

2日目の阿佐東線 DMV (Dual Mode Vehicle) 視察では、道路と線路の両方を走行できる車両の導入経緯と現状について説明を受けた。詳しい説明をいただく中で、平成17年 JR 四国の社長が JR 北海道の視察において、「DMV は地方の公共交通のモデルとなり、地域を救う救世主になる」と確信し、その場で導入を要望したことが DMV 導入の全ての始まりとのこと。四国では徳島県・高知県・海陽町・美波町・牟岐町などの関係自治体で組織する『阿佐東線 DMV 導入協議会』が発足し、DMV 導入決定から6年かけて運行開始された。四国における多くの自治体との連携によって成り立っていることは、公共交通については、自治体間の連携の必要性を強く感じた。

最後に、上勝町、阿佐東線 DMV のどちらについても共通していることは、それぞれの地域にあるものを活かし、それぞれの自治体の未来につながることに向け、新たな一歩を踏み出され続けてこられていると感じた。